

環境報告書 2024

《2024年7月21日 金手自治会の三島神社 夏祭りの山車》



わかもと製薬株式会社

相模大井工場

目次

会社概要	2
1 ごあいさつ	3
2 環境方針	4
3 環境管理体制	5
4 専門部会の活動	5
5 環境負荷の全体像	6
6 環境への取り組みと実績	7
(1) 温室効果ガスの排出量の推移	8
(2) 大気汚染物質の推移	8
(3) エネルギー使用量の推移	9-10
(4) 用水使用量・公共下水道排水の推移	11
(5) 廃棄物発生量の推移	11
(6) 化学物質の管理	12
(7) PCB廃棄物の保管状況	13
7 環境会計	13
8 緊急事態の対応	14-15
9 社会貢献活動	16-17
10 終わりに	17

会社及び工場概要

- ・ 設立 1929年4月
- ・ 資本金 33億95百万円
- ・ 本社 東京都中央区日本橋本町
2-2-2
- ・ 事業内容 医療用医薬品・一般用医薬品 製造販売
- ・ 相模大井工場 神奈川県足柄上郡大井町
金手378
(敷地 67千㎡、建物延面積 23千㎡)
- ・ 工場及び研究所人員 203名
(2024年8月1日現在 協力会社を含む)
- ・ 常駐する協力会社
特別警備保障(警備業務)
(株)ジャパン・リーフ (マイクバス運転業務)
(株)東海ビルメンテナンス (清掃業務)
派遣会社6社
- エネルギー使用量
 - ・ 電力 7,751千KWh
 - ・ 都市ガス 2,170Km³
 - ・ ガソリン (社用車・マイクバス)
2,219L
 - ・ LPG 78m³
 - ・ 井水 571m³

1 ご挨拶

環境への取り組み

新型コロナウイルスの感染状況は大きな流行の波は無くなってきましたが、感染するリスクはゼロにはなっていないため、引き続き十分な感染予防対策を行いながら、経済・社会活動の維持・活性化が望まれています。一方で、ロシアによるウクライナに対する軍事侵攻は続いており、さらなる長期化は避けられない情勢になっています。さらに、イスラエル・パレスチナの中東情勢の緊迫化によって、エネルギーの安定供給やサプライチェーンに支障が出てくる可能性があります。

環境面に関していえば今年の夏も異例の暑さでありましたが、さらに10月になっても夏が続く、危険な暑さだけではなく危険な温度変化も体感することとなりました。このような状況において、地球温暖化の防止を目的とした環境改善の取り組みは継続的に行っていく必要があります。

相模大井工場では本年度も環境マネジメントシステムの定期的な維持審査を受け、システムの適合性を確認していただいています。継続的に認証を取得していくために、より一層の管理体制の強化を図っていきたく思っております。

昨年、再生方式による省エネルギー効果のあるガスボイラへの更新を行いました。安定かつ効率の良い燃焼のため、工場の二酸化炭素排出量は前年比で5%前後削減できています。今後も省エネルギー対策の設備更新を随時検討していきます。また、厳しい暑さが長期間続いた今年の夏ですが、工場全体で省エネルギー対策を行い、電力使用量の削減に取り組みました。さらに、オフサイト PPA の導入検討も開始し、今後も二酸化炭素排出量削減に貢献していきたく思います。

さらに、製造過程で必要な製造用水の有効活用および排水量の管理は継続的に実施していきます。特定化学物質の取扱いの有無、また取扱量等の管理は確実に行っていきます。廃棄物管理については分別廃棄を促進して、再資源化率の向上、また廃棄物の減量化を推進していきます。さらに、外部団体との交流や自治会や行政との課外活動も増えてきており、新型コロナウイルスの感染予防対策を継続しながら活動していきます。

今後も皆様の健康に貢献し、また医薬品・医薬部外品等の製造を通じて継続的に環境負荷低減を目指していきますので、引き続き皆様の一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

2024年10月

わかもと製薬株式会社 相模大井工場

取締役 生産本部長

相模大井工場長 谷口 誠

環境方針

基本理念

わかもと製薬株式会社相模大井工場は、「医薬品、医薬部外品、診断薬や医薬品原料および食品用乳酸菌」の製造を通じて、価値のある製品を提供し社会貢献していくとともに、次世代に住みよい豊かな地球を引き継ぐために、地球環境保全活動を積極的に推進する。

基本方針

1. 事業活動が環境に与える影響を明確に捉え、技術的・経済的に可能な範囲で汚染予防に努める。
2. 環境関連の法律、規制や協定およびその他の要求事項を遵守する。
3. 省資源、省エネルギー、有害物質の使用低減、廃棄物の削減および再資源化を推進し環境負荷低減に努める。
4. 農業用地に隣接した立地条件を考慮し排水の管理を徹底するとともに、地域社会とのコミュニケーションを深めより一層の調和に努める。
5. 定期的に環境マネジメントシステムの監査を実施し、システムの見直しを通じて継続的な改善・向上を図る。

環境保全活動を実施、維持して、内容を周知するとともに、外部の要求に応じ公表する。

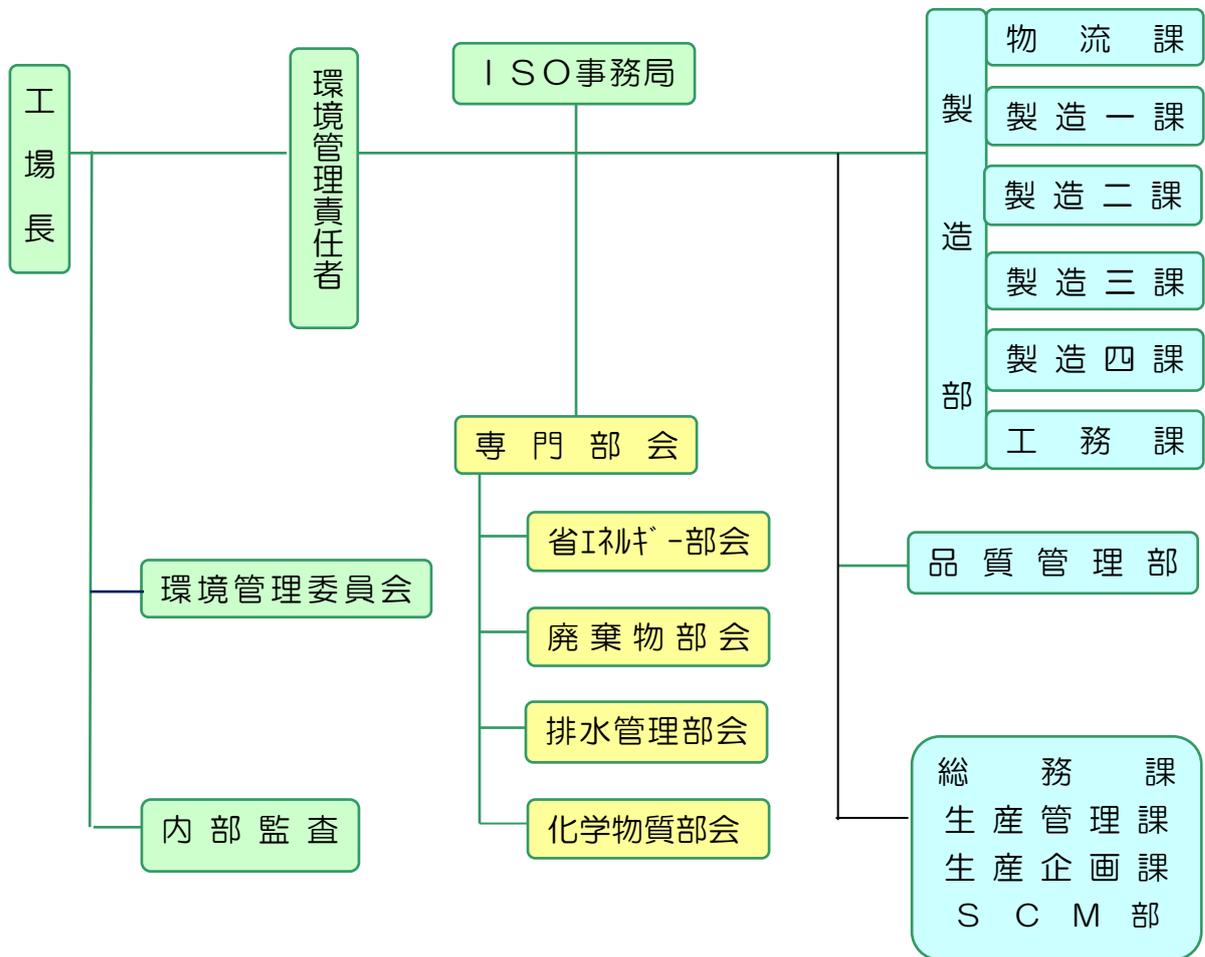
2024年10月1日

わかもと製薬株式会社 相模大井工場
取締役 生産本部長

相模大井工場長 谷口 誠

3 環境管理体制

わかもと製薬株式会社相模大井工場の環境管理は、以下のような組織で運営しています。



4 専門部会の活動

省エネルギー部会

省エネルギー、CO₂排出量の削減活動の推進・啓発を目標に、省エネタイプの機器等の導入、冷房・暖房の適正温度の順守活動、各部門のエネルギー使用量をフィードバックすることにより、エネルギー使用量の削減に取り組んでいます。

廃棄物部会

廃棄物排出量の減量化計画立案、推進、リサイクルの推進・啓発活動を行い、リサイクル率の向上及び廃棄物排出量の削減に取り組んでいます。

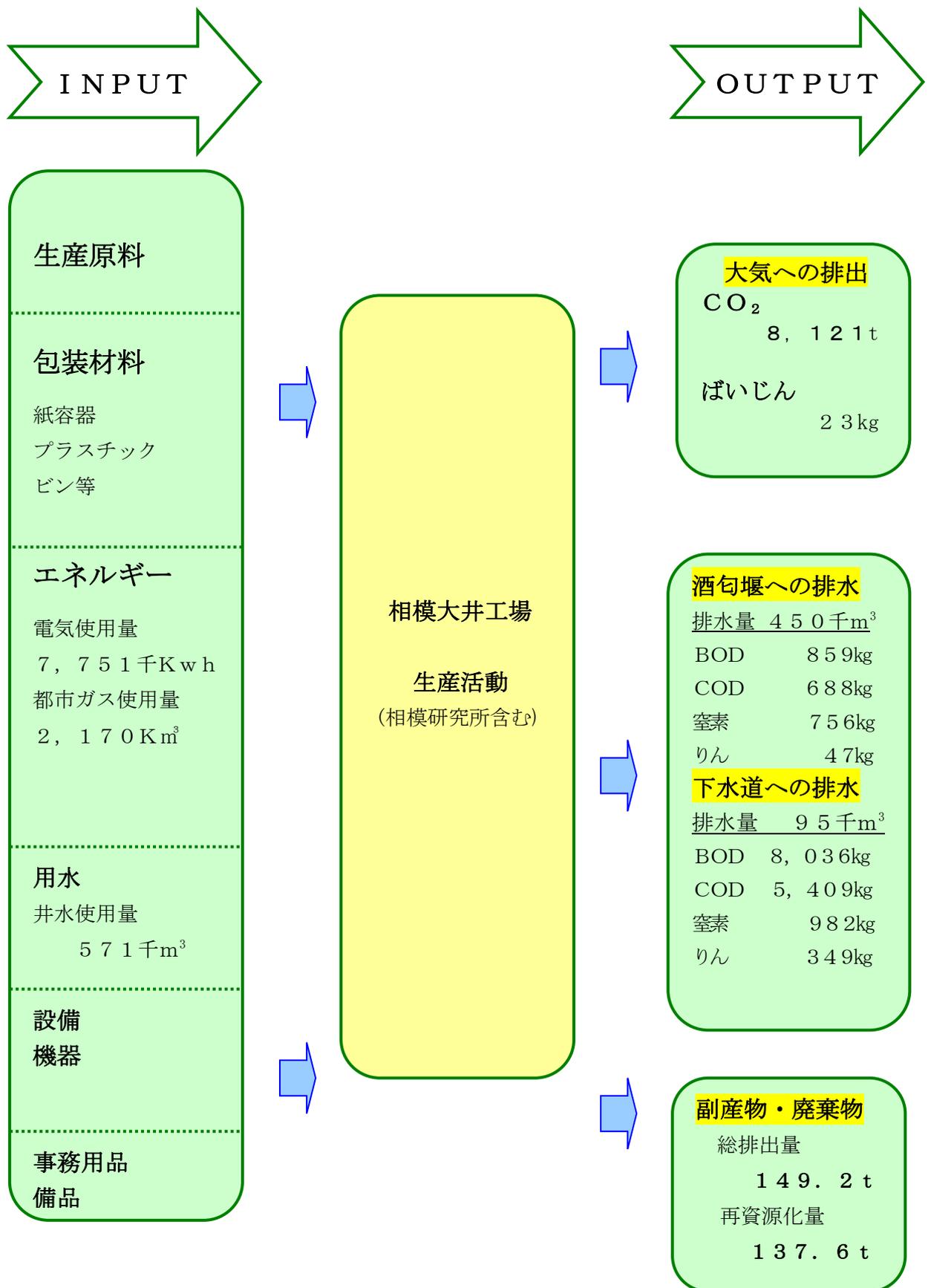
排水管理部会

排水管理を推進・啓発し、一般排水、公共下水道排水への未処理排水等を流出させないように取り組んでいます。

化学物質部会

化学物質の管理を推進、啓発活動を行い、取扱量、排出量の把握と削減に取り組んでいます。

5 環境負荷の全体像（2023年度 年間使用、排出量）



6 環境への取り組みと実績

環境目的・目標マネジメントプログラム2023に定めた実施項目に従い、環境保全活動を推進しました。主な活動実績は下記の通りです。2023年度は、新型コロナウイルスの影響が薄れてきて、生産量が少しずつ増加してきました。そのことで、エネルギーと廃棄物に関しては増加傾向となりました。

2023年度 活動結果

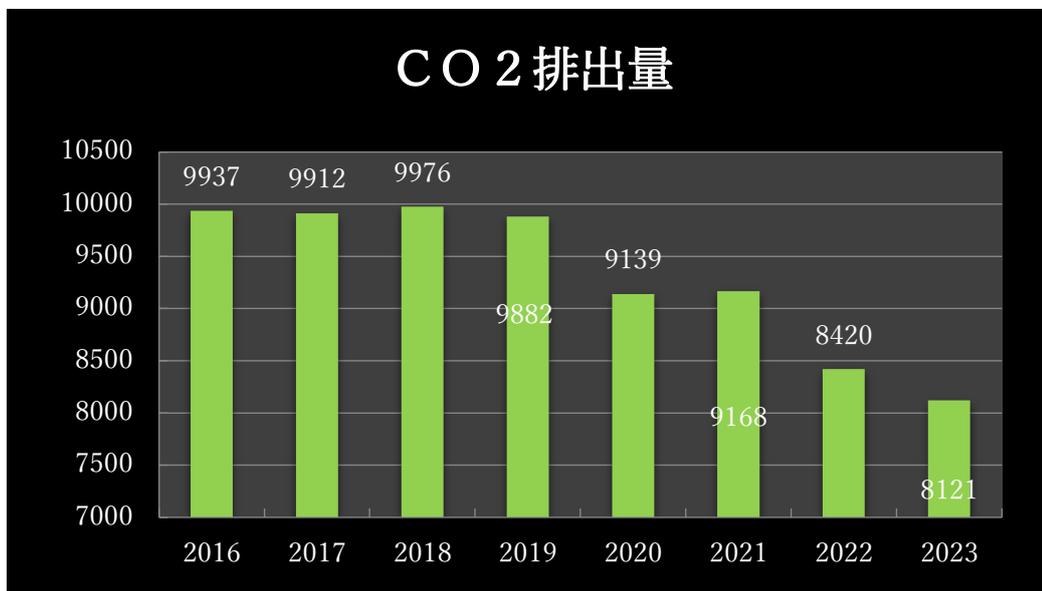
目的	目標	結果	備考
温室効果ガスの削減	<ul style="list-style-type: none"> 電力使用量の削減 製造部門(2022年度原単位以下) 非製造部門(2022年度以下) 都市ガス使用量の削減 製造部門(2022年度原単位以下) 非製造部門(2022年度以下) 社有車等燃料使用量の削減 ガソリン(51.5L/月以下) (社用車・軽トラ・軽バン) ガソリン(138.0L/月以下) (マイクロバス) 	<ul style="list-style-type: none"> 達成率 101.2% 達成率 118.6% 達成率 100.6% 達成率 130.6% 達成率 127.7% 達成率 95.4% 	<ul style="list-style-type: none"> 詳細は P8 を参照
廃棄物の減量化	<ul style="list-style-type: none"> 資源化率の向上 (90%以上) 排出量の削減 (2022年度以下) 	<ul style="list-style-type: none"> 達成率 102.4% 達成率 96.5% 	<ul style="list-style-type: none"> 詳細は P11-12 を参照
資源の有効利用	<ul style="list-style-type: none"> コピー紙使用量の削減 (2022年度以下) 副産物の有効利用 	<ul style="list-style-type: none"> 達成率 108.6% 肥料として農家等に譲渡 	
環境管理の改善	<ul style="list-style-type: none"> PCB コンデンサー等の委託処分 作業効率の向上 	<ul style="list-style-type: none"> すべて処理済み。 作業等の改善提案として208件提出された。 	<ul style="list-style-type: none"> 詳細は P12 を参照
法順守体制の整備	<ul style="list-style-type: none"> PRTR 法対応の推進 緑地の維持管理 	<ul style="list-style-type: none"> 特定有害物質の県への届出。 定期的に緑地の除草及び樹木の剪定を実施した。 	<ul style="list-style-type: none"> 詳細は P12 を参照
地域社会との共生	<ul style="list-style-type: none"> 地域社会で開催する美化活動等への参加 地域行事への協力 	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルスの影響の様子を見つつイベントに参加しました。 	<ul style="list-style-type: none"> P16~P17 を参照

(1) 温室効果ガス排出量の推移

2023年度の電力・都市ガス（CGSを含む）からのCO₂排出量8,121tでした。2022年度（8,420t）より299t温室効果ガスを削減しました。

温室効果ガス（CO₂）排出量 単位：t （過去8年間の推移）

注）2023年度は東京ガスのCO₂排出原単位は炭素クレジットを反映した値0.387（Kg-CO₂Kwh）を使用しました。

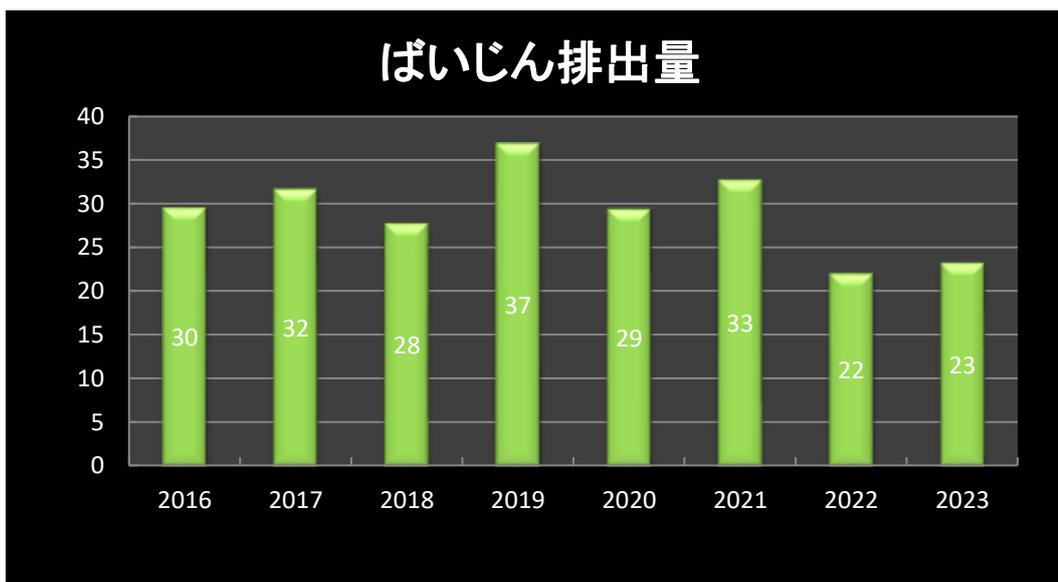


(2) 大気汚染物質の推移

1) ばいじん排出量の推移

2023年度の煤塵排出量は23Kgでした。2022年度（22Kg）と比べて1Kg増加しました。煤塵排出量は、ボイラ6台で合計が10Kg、CGS1台が13Kgで合計が23Kgとなります。

ばいじん排出量 単位：Kg （過去8年間の推移）



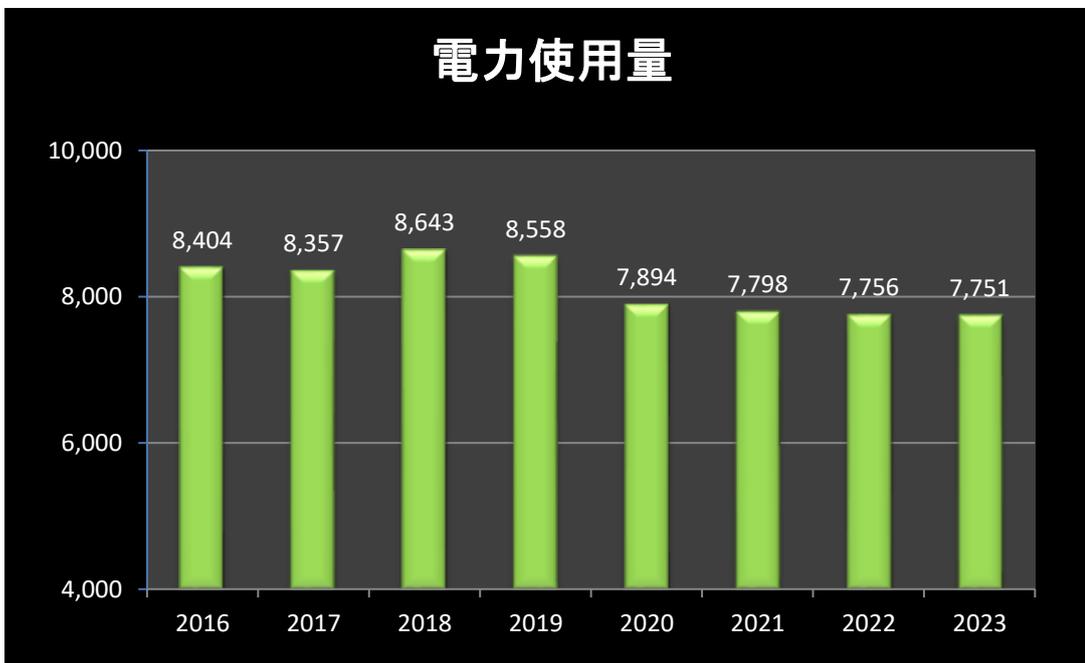
注）ばいじん量については、実測した2回の平均を使用しています。

(3) エネルギー使用量の推移

1) 電力使用量の推移

2023年度の電気使用量は、7,751千Kwhでした。2022年度(7,756千Kwh)比較すると実績で5Kwh電力買取量が減少できました。

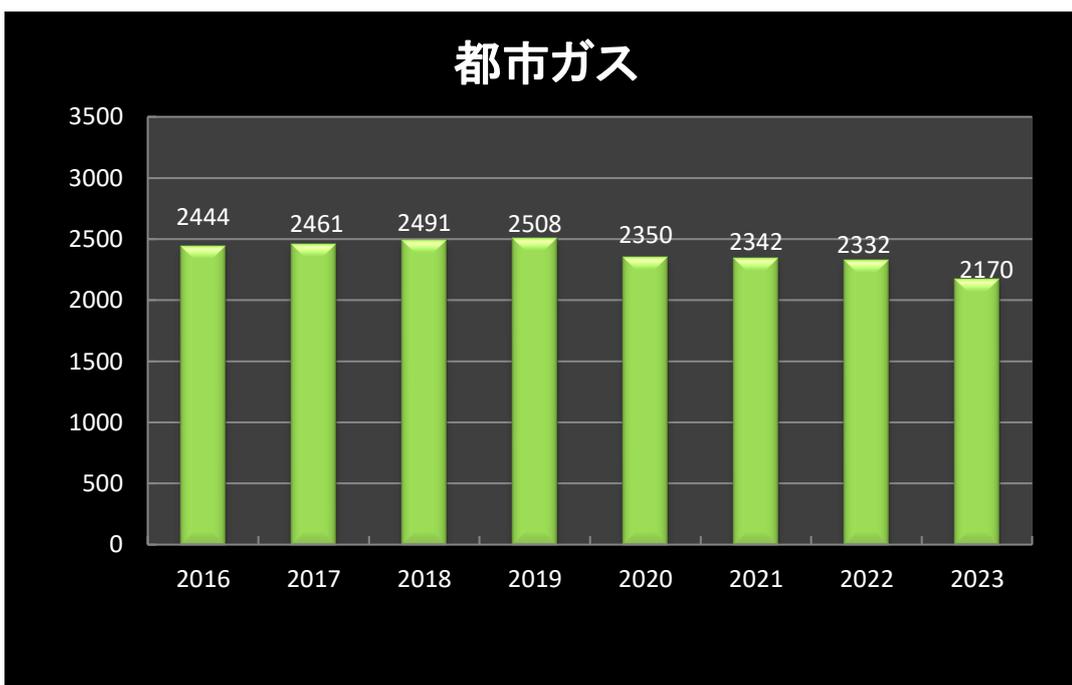
電力使用量 単位：千Kwh (過去8年間分の推移)



2) 都市ガス使用量の推移

2023年度の都市ガス使用量は2,170Km³でした。2022年度(2,332Km³)に比較して162Km³減少しました。

重油・都市ガス使用 単位：ガス Km³ (過去8年間分の推移)

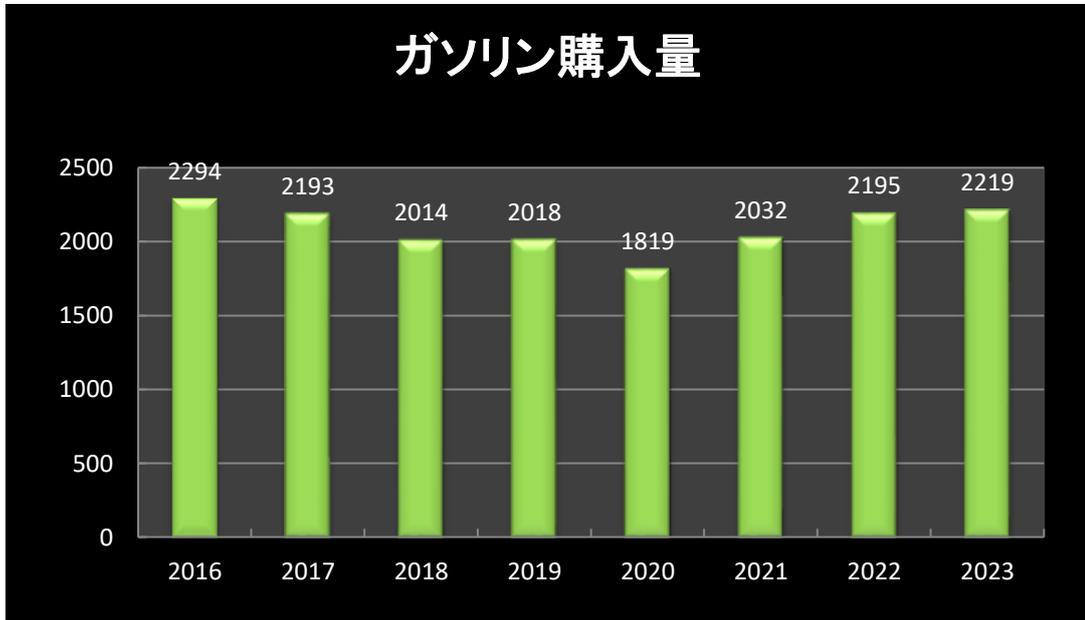


3) ガソリン（社用車・送迎マイクロバス）・LPG 使用量の推移

2023年度のガソリンの使用量は、2,219Lでした。2022年度（2,195L）に比較して24L増加しました。

ガソリン使用量

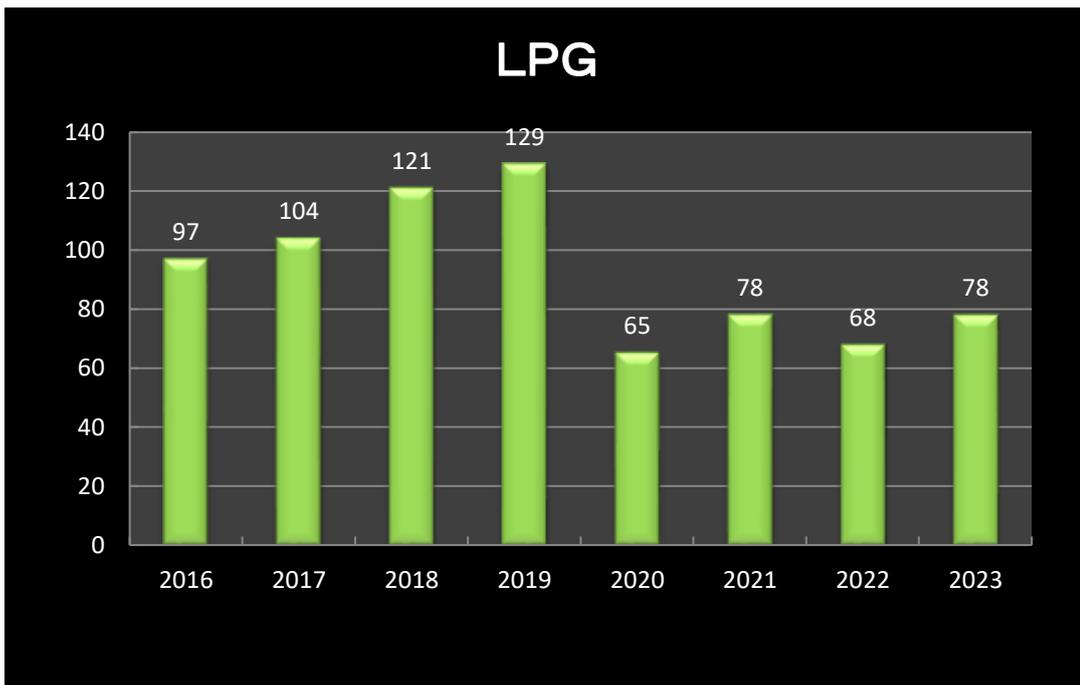
単位：ガソリン L（過去8年間分の推移）



LPG使用量

LPGについては、2023年度は78m³使用しました。2022年度（68m³）に比較して10m³増加しました。

単位：LPG m³（過去8年間分の推移）



(4) 用水使用量及び公共下水道排水の推移

2023年度の工場（研究所含む）用水使用量は571千 m^3 を使用しました。2022年度（518千 m^3 ）に比較して53千 m^3 増加しました。公共下水は、2023年度94.9千 m^3 排出し、2022年度（85.9千 m^3 ）に比較して9千 m^3 増加しました。公共下水に関しましては、排出削減と法規制値を順守した管理を実施して行きたいと考えます。

用水使用量・公共下水排水量 単位：千 m^3 （過去8年間分の推移）



(5) 廃棄物発生量の推移

日頃より、産業廃棄物量の削減、再資源化率向上に努めています。2023年度は年間総廃棄物量が149.2t発生し、2022年度（156.6t）から7.4t削減しました。また、再資源化率は目標値としている90%に対して、92%という結果でした。今後も、廃棄物の減量化やリサイクル率向上に向けて活動してまいります。

廃棄物発生量 単位：t 廃棄物再資源化率 単位：% （過去8年間の推移）



廃棄物保管施設



廃棄物施設面積等	64.1M × W4.35M × H3.8M		
2t フォークリフト	1台	1.5t 計量器	1台
150kg 計量器	1台	1.5t チェーンブロック	2台
プレスコンパクター	1台	破砕機 (プラスチック成型用)	1台
破砕機 (ガラス屑用)	1台	1t 保管コンテナ箱	62基
生ゴミ処理機	1台		

(6) 化学物質の管理

P R T R法に沿った形で、第一種指定化学物質 年間取扱量1t以上、特定第一種指定化学物質0.5t以上の物質については、取扱量・排出量等を神奈川県に届出ることになっております。弊社での対象物質はnヘキサンだけとなっておりますが、主に使用している化学物質の購入量をまとめております。

主な使用管理対象物質 (前年度との比較)

指定化学物質名		取扱量 (Kg)	
		2022年度	2023年度
第一種	nヘキサン	5,090.0	3,707.3
"	クロロホルム	2.3	3.2
"	ホルマリン	833.0	533.0
第一種特定	ベンゼン	1.5	1.3
"	ホウ酸(ホウ素化合物)	530.0	417.5

7 環境会計

集計範囲：わかもと製薬(株)相模大井工場（一部研究所も含む）

対象期間：2023年4月1日～2024年3月31日

環境保全コスト

(単位：千円)

コスト分類	主な取り組み内容	投資額	費用額
事業エリア内コスト		15,493	18,496
公害防止コスト	・排水処理施設の維持管理 ・CIP排水中和装置設置	1,496	2,546
地球環境保全コスト	・ボイラの維持管理	10,396	11,089
資源循環コスト	・廃棄物処理委託 ・廃棄物のリサイクルなど	3,601	4,861
上・下流コスト	・容器包装再商品化委託費 ・廃棄製商品の適正処理	2,016	8,029
管理活動コスト	・環境マネジメントシステム維持・運用 ・排水、大気等の分析調査 ・事業所内の緑地保全	3,402	4,662
研究開発コスト	・動物空調維持管理	9,634	9,633
社会活動コスト	・社会貢献活動 ・環境保全に関する団体等への寄付金	100	100
環境損傷コスト	—	0	0
その他のコスト	—	—	—
合計		30,645	40,956

環境保全効果

▲は増

効果の内容	単位	2022年度	2023年度	環境保全効果
電気使用量	千Kwh	7,756	7,751	5
都市ガス使用量	Km ³	2,332	2,170	162
ガソリン使用量	L	2,195	2,219	▲24
井水使用量	千m ³	518	571	▲53
CO ₂ 排出量	t	8,420	8,121	299
廃棄物排出量	t	157	149	8

8 緊急事態への対応

相模大井工場（研究所含む）では緊急事態を想定した防災訓練及び火災予防訓練等を実施しております。また、大規模地震災害後を想定した、工場・研究全体での避難訓練等も計画的に行っております。また、会社全体では大きな災害が起きた場合、従業員の安否確認をする手法として、ANPIC（安否確認システム）を利用しています。昨今では、大型台風や、線状降水帯による豪雨等による天候悪化により、社員が公共交通機関で帰宅できなくなる「帰宅困難者」が発生しないよう、迅速な対策を取るよう心がけています。

● ガス漏れ訓練（自衛訓練）

2023年度は、12月22日に工場内部の特定業務訓練の一環として、地震等による都市ガス漏れが生じたと想定して、当該ガス会社が到着し対応するまでの時間、工場内に本部を立ち上げると同時に、ガス漏れ付近を封鎖する訓練を行いました。

● 避難訓練

相模大井工場（研究所を含む）では、地震警報発令による大規模災害を想定した避難訓練を12月4日に行いました。集合場所は、工場正門付近のロータリー付近に設定し、移動の時は、ヘルメット着用を義務付けております。各職場の避難誘導班による指定された位置までの誘導訓練、避難後の人員確認等、確実かつスピーディーに行動できるかの確認を中心に行っています。集合後、防火管理者による避難訓練の趣旨と避難時間等の状況報告、最後に、工場長から総括する避難訓練を行いました。

《工場・研究所全体の避難訓練》



●消火器訓練と放水訓練

12月5日に、防火管理者指導による、消火器使用による初期消火訓練と、工場内で組織している自衛消防隊の訓練を実施しています。まず、消火器使用による初期消火訓練は、対象者として、新入社員及び中途採用者対象にグラウンドにて実施し、有事の際の初期消火の心構え等を教育しました。その後、自衛消防隊員の訓練を行いました。自衛消防隊には消火班とポンプ班があります。消火班は、屋外消火栓を利用した消火訓練が役割となっています。有事の場合この組織中心に対応し、消防車が到着するまでの消火にあたります。訓練は、3班ほどに分かれ、消火ホースのつなぎ方から放水口の取付、放水合図の方法や放水口での構え方まで、一連の動きを行っていますが、今年は、消火ホースの取扱いを行いました。また、ポンプ班の役割としては、消火栓が届かない地区もあります。その部分を補うために可動式消火ポンプが1台完備してありますので、ポンプの可動手順の確認を行いました。可動式ポンプは、月に一度エンジンをかけるなどの点検記録をとり、いつでも稼働できるよう管理しています。

《自衛消防隊によるホースと可動式消火ポンプの確認訓練》



●浸水訓練

当工場の西側には二級河川の酒匂川があります。また、工場の数百メートル上流には、酒匂川の本川に支川である音無川の合流地があります。数年前の線状降水帯の大雨により、堤防の決壊寸前までいったことがありました。そこで、建物内に少しでも水の浸水を防ぐための処置として、「ボックスウォール」を使用して設置訓練を行っています。また、吸水性土のう「アクアブロック」や、土のう袋等も多く購入し、いざという時に被害が最小限になるよう日頃から準備しております。

《ボックスウォールと吸水性土のう》



9 社会貢献活動

● 美化活動

新型コロナウイルスが第5類扱いとなったことで、昨年から、町内の行事はほぼ通常開催で行われるようになりました。5月14日に開催予定されていた酒匂川統一美化キャンペーンに関しては、当日雨天だったため中止となりました。11月12日に開催された大井町クリーンキャンペーン2023については、従業員やご家族の方にも参加して頂き、総勢10名の参加者がありました。最近、少しずつ参加者の減少が続いているので、来年以降、社員の行事活動参加への要請に力を入れて行く予定です。

《11月12日の大井町キャンペーン2023》



●自動販売機等による募金活動と食品自動販売機

飲料用自動販売機にて売り上げの一部を、非営利団体を通し寄付金として、東日本大震災への義援金や盲導犬協会の募金支援活動に取り組んでいます。また、赤い羽根募金やエコキャップ活動を通じて、社会貢献活動への協力参加も行っています。また、飲料用の自動販売機の1台を、災害時に飲料水が取り出せるようにして、飲料の確保対策も取っています。

福利厚生面では、食堂が廃止され仕出し弁当になったことから、仕出し弁当以外の選択の為に、コンビニエンス提携自販機を設置し好評を得ています。

《募金付の自動販売機》

《左側の自動販売機が、コンビニ提携の自動販売機》



《大井町福祉協議会への協力としての赤い羽根募金》



●献血運動

当工場(研究所を含む)は、年に2回開催しています。2023年度の開催日は1回目の7月に11名、2回目の12月に8名の協力がありました。今後も継続して献血運動を推進していきたいと考えます。

●地域社会との交流

例年は地域社会とのコミュニケーションを図るために、自治会等へ工場敷地の利用等提供を行っています。自治会の年間行事で当工場が関わるものとして、夏祭り、どんど焼き、花見会があります。毎年7月に開催する夏祭は、工場敷地が休憩場所として提供しています。2024年1月のどんど焼きに関しては実施されましたので、当社で剪定した木々の廃木材を、どんど焼きのやぐらの材料として提供いたしました。2024年3月に実施された花見の会については、コロナ禍以前は自治会の要請で工場敷地を貸し出していましたが、今回も自治会の判断で、弊社の敷地内での使用は見送られています。また、グラウンドに関しては、小田原消防署と大井町と弊社で、ドクターヘリの離発着場として協定を結んでいますし、土日祝日には少年サッカーチームや女子ソフトボールチームへの無償の貸し出しもしています。また、年に一度工場近くの保育園園児たちが、凧揚げ大会で使用するなどグラウンドの貸し出しも積極的に行っています。

10 おわりに

わかもと製薬相模大井工場の近くにある、金手三嶋神社は、毎年7月に山車を金手地区内に繰り出す夏祭りを開催しています。金手三嶋神社の創建年代は不詳ながら、かつては文安年間（1444-1448）に創建した三島院持ちの社として祀られ、金手の鎮守として祀られていました。明治41年に地内の諸社を合祀したという歴史があります。この山車が弊社敷地内のロータリーで折り返す時に、休憩場所として利用して頂いています。

2019年から新型コロナウイルスの影響で、夏祭り自体が自粛される中、2023年に、新型コロナウイルスが第5類に移行したこともあり、復活することとなりました。

ここ数年、温暖化の影響もあり暑い中での開催となり、以前から弊社では、休憩される方々にアイスの提供を行っていて、参加者の方々に喜ばれています。

これからも、地域住民の行事に積極的に参画し、コミュニケーションが取れるよう努力してまいります。

本報告書の作成にあたりましては、皆様方からの貴重なご意見・ご感想・ご指導を頂き、作成させていただいています。内容について、さらなる充実を図っていきたいと考えております。何かございましたら下記の事務局までお申し出を頂きますようお願い申し上げます。

「環境報告書2024」に関する意見・お問い合わせは
わかもと製薬株式会社 相模大井工場 ISO事務局
〒258-0018 神奈川県足柄上郡大井町金手378
TEL: (0465) 83-3311 FAX: (0465) 82-0861